



集落支援員 だより

SASAKI RYOUMEI

佐々木 良明

担当地区：菅福



SAKOHIRA TOMOKO

迫平 朋子

出身地：広島県

所属団体：まめなか屋



楽しく・明るく そしてにぎやかに

なにやら遠くで威勢よく鳴くウグイスが。
時にはどこかで悲しげなカエルの声もしたような…。

そんな菅福に小さな拠点「住舞瑠^{すまいる}」がオープンして、
はや1カ月。いつのまにか何もなかった住舞瑠^{すまいる}に、
たくさんの花。チューリップ、サクラソウ、ビオラ…。
みなさんからのあかるいやさしさに、「ありがとう」
です。

「〇〇時に住舞瑠^{すまいる}で」と約束して来店し、にぎやかに。
「滝山の桜、ツツジ咲いたかな」「露店の栗まんじゅ^{すまいる}
うあるかな」などなど。住舞瑠^{すまいる}の中から、
歩いている隣人を呼び止めて引っ張り込
んでにぎやかに。「自分がコーヒー代払っ
とくから」「ツケがきくから」などなど。

みんなが集う、憩いの場としてスタート
することができました。



日野町とご縁をいただいてから、6月で1年を迎えます。この1年…町や皆さんを知ること、金持ブランドコレクション商品準備、まめなか屋店舗リニューアルオープン、お菓子の壽城へ2号店「カナウ」出店など…めまぐるしく日々が過ぎました。

ジモチじゃないからこそ「日野町いいもの発掘！発見！」を、お店を通じてどのように世の中に伝えたいか、考えながら活動しています。きっと町内の皆さんにとっては当たり前のような事が、町の活性化や起爆剤になる可能性を秘めているはずです。

お店に来て、いろんなお話を聞かせてくださいね！一緒にワクワクしましょう～！お待ちしております♪



日野高 NEWS

日野郡唯一の高等学校である日野高校。日野高生ってどんな活動をしているの？地域とのつながりを大切にしている日野高生の姿を、日野町の皆さんにお届けします！



4/11
(月)

地域を元気にしていこう 日野探究Ⅱスタート！

令和4年度から、3年生総合的な探究の時間「課題研究」を「日野探究Ⅱ」と名称を改め、今年度もスタートしました。

初日は、自分たちの探究テーマを探るために話し合ったり、検索したりしました。今年度の探究テーマは、「地域の魅力発信」「特産品の栽培とレシピ開発」「We スポーツ（※）や3町3色パンで高齢者も元気に」などです。今年度も地域を元気にすることを目指して、探究活動を進めていきます。

※ We スポーツとは…Welfare（福祉）とWellness（健康）をeスポーツで体験すること。



▲それぞれの課題を見つめ合い、深めていく

認知症の周辺症状－その③

怒りっぽい、暴言、暴力

日野病院 病院長 孝田 雅彦

日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。



前頭葉の委縮で起こる 人格変化の症状

「怒りっぽくなった」「暴言を吐く」「暴力をふるう」これも認知症の患者さんによく見られます。これは主に前頭葉の萎縮による症状です。

前頭葉は人間が他の動物と比べて最も発達した部位であり、人格に関わるとともに人間の社会的行動、感情をコントロールする役割があります。お酒に酔っ払うと暴言を吐いたり、暴れたり、あるいは陽気になったり、泣き上戸になったりします。これは、アルコールにより前頭葉の働きが麻痺して感情のコントロール

ルができなくなった状態です。

アルツハイマー型認知症では側頭葉の萎縮が最初に来るため記憶障害がまずあらわれ、その後、前頭葉の萎縮が来るためこのような症状は病状が進行してから起こります。一方、前頭葉側頭葉型認知症は前頭葉が早く、急速に萎縮するため、記憶障害よりも人格変化が早く起こり、発症早期から怒りっぽくなります。

落ち着いて否定せず 肯定的に対応を

怒りの原因を調べると、①周囲の状況が理解できず混乱している②周囲の

人との関係性もつれる③体調不良が怒りにすり替わっている、などがありません。では、どのように対処すれば良いでしょうか。

まず、してはいけないことは、怒っている人を叱ることです。暴言を吐かれればつい反論し叱ってしまいがちになります。怒っている本人も怒っている理由が分かっている、忘れている、まっています。

また、怒りの原因である妄想や勘違いは訂正が不可能です。叱ると叱られたことはわかって、なぜ叱られたかは理解できないため、より感情的になってしまいます。興

奮しているときはその場を離れ、様子を見るのが無難です。落ち着いてくれば声をかけて話を聞いて、否定せずに肯定的に対応しましょう。

しかし、暴言・暴力が頻回になれば医師に相談し、薬物療法を加えることも必要になります。介護者がギブアップ状態になる前に、早めに一度相談し、経過を見ながら必要時に薬物を追加するのが良いと思います。

認知症の患者への対応は長く、根気のいる、正解のないものです。介護者が疲弊しないように助け合っていきましょう。

